

芸 能

山形でファンクラブ協が総会

日本プロオーケストラファンクラブ協議会(JOFC)の第2回総会が23日、山形市内のホテルで開かれた。札幌交響楽団(札幌)のファンクラブ「札幌くらぶ」をはじめ、全国各地から7団体が集結。地域とともに歩むオーケストラと支援のあり方などについて情報交換し、交流を深めた。(川島博行)

地域と歩む オーケストラ

同協議会は二〇〇六年十一月、札幌くらぶ、仙台フィルハーモニークラブ(SPC)、山形交響楽団の山響ファンクラブ、群馬交響楽団の群馬ファンズ、広島交響楽団の広島ファンズ、立音楽堂楽友会も加わり、七団体に。札幌くらぶの十人を含め、各地から約八人が出席した。

はじめに、札幌くらぶ会を開催。総会は毎年一回、長の上田文雄JOFC会長が「自分たちのオーケストラを大事にし、力強く支援したい」とあいさつ。昨年九月の仙台での第一回は名古屋フィルハーモニー交響楽団の講演し、「音楽やオーケストラが、名フィルファンクラブも加わり、六団体となった。

「お客さんを上げていくことになり、現在は総会・交流会ができる」と述べた。各団体が活動状況を報告し、札幌くらぶは武藤義典事務局長が札幌くらぶコンサートの来年八月の復活開催、楽譜購入費の支援などについて説明。ほかに、「終演後に聴衆同士がカフェに集まる茶話会が好評(SPC)」「群響との合同公演が行われ、ファンにとってもいい」と報告があった。

「石川県立音楽堂楽友会」などの報告があった。また、プロオーケストラのある国内の都市の中で、人口は山形市が約二十五万人と最も少なく、山響ファンクラブは「楽団員と聴衆の距離が最も近い」と強調した。

地域によっては演奏会場が

7団体が情報交換し交流



山形に結集した全国各地のファンクラブ会員。今後も交流を重ねていく

「お客さんを上げていくことになり、現在は総会・交流会ができる」と述べた。各団体が活動状況を報告し、札幌くらぶは武藤義典事務局長が札幌くらぶコンサートの来年八月の復活開催、楽譜購入費の支援などについて説明。ほかに、「終演後に聴衆同士がカフェに集まる茶話会が好評(SPC)」「群響との合同公演が行われ、ファンにとってもいい」と報告があった。

「石川県立音楽堂楽友会」などの報告があった。また、プロオーケストラのある国内の都市の中で、人口は山形市が約二十五万人と最も少なく、山響ファンクラブは「楽団員と聴衆の距離が最も近い」と強調した。

地域によっては演奏会場が

曲目解説、合同演奏：ファンとともに

札幌と同様、各オーケストラは地域密着に取り組み、意欲的な演奏活動も続けている。

二〇〇七年に山形交響楽団の音楽監督になった飯森範親は常任指揮者の時から、演奏会の前に曲目解説などのフレトック、終了後にホワイエでファンとの交流会を開いている。

今年二十三日の定期演奏会のフレトックでも、ホルンやトランペットに加え、トロンボーンも作曲当時の仕様の時代楽器を使うことを説明し、楽団員が現代楽器と吹き比べて音の違いを披露した。

交流会ではファンが囲み中、飯森とソリストの神尾真由子が間近でインタビューに答えた。

定期演奏会とは別に〇七年から年に三回、約八年を

山形交響楽団、仙台フィル

かけて、「アマテウスの旅」と題してモーツァルトの交響曲全曲演奏会にも挑戦している。ライブ収録のCD全集も目指し、今回の定期演奏会会場で第一弾が発売された。

隣県にある仙台フィルハーモニー管弦楽団も奮闘している。今年二十四日に仙台市内で開いた特別演奏会

「オーケストラVSブラッス」の第一回は公募のブラッス奏者と合同演奏。第二回は仙台フィル単独のステージだが、レスピーギの交響詩「ローマの松」では公募の中学高校生六人が客席から演奏に加わった。

この後、指揮者の山下史は「仙台フィルは仙台の皆さんとともに歩んでいきたい」とあいさつ。最後のスーザの行進曲「星条旗よ永遠なれ」では、楽器を持ってきた聴衆がステージ下や客席通路に集まって演奏に参加した。子供から大人までがトランペットやフルートなどを懸命に奏で、他の聴衆はリズム良く手拍子。会場は一体となり、大いに盛り上がった。

山形交響楽団定期演奏会の終了後、ファンと交流する飯森(右)と神尾



「お客さんを上げていくことになり、現在は総会・交流会ができる」と述べた。各団体が活動状況を報告し、札幌くらぶは武藤義典事務局長が札幌くらぶコンサートの来年八月の復活開催、楽譜購入費の支援などについて説明。ほかに、「終演後に聴衆同士がカフェに集まる茶話会が好評(SPC)」「群響との合同公演が行われ、ファンにとってもいい」と報告があった。

「石川県立音楽堂楽友会」などの報告があった。また、プロオーケストラのある国内の都市の中で、人口は山形市が約二十五万人と最も少なく、山響ファンクラブは「楽団員と聴衆の距離が最も近い」と強調した。

地域によっては演奏会場が

アフィニス文化財団(東京)は、長野県飯田市で続げてきた「アフィニス夏の音楽祭」が今年で二十回の節目を迎えたのを機に、来年からプロオーケストラのある地方都市での開催を決めた。来年は広島、再来年は山形が会場となる。

この音楽祭は国内のプロオーケストラの楽団員を対象に、交流とレベル向上の機会を提供する目的。国内外の一流の演奏家を講師

に引き、室内楽アンサンブルを中心にセミナーと演奏会を行う。JOFCの総会と懇親会に来賓で出席した推名慎一専務理事によると、施設面や音楽祭が行われていない点などを考慮し、広島と山形を選んだ。両市で毎年交互に開催していく。広島交響楽団と山形交響楽団がホストオーケストラとなり、音楽祭メンバーとの合同演奏など、「新しい形で続けていきたい」(推名専務理事)という。

広島と山形 来年から交互に